

# カッコよくなりたい(略) 台本

筆者 白石華

サークル小説屋白石華

こちら、D L s i t e スタジオ様用の台本となります。よろしく  
お願いします。

## キャラクター紹介

### 主人公

僕。男の娘。二十歳程度。合法ショタ。金髪でフワフワした髪だが  
外国語訛りは無い。育ちは生粋の日本育ちの日本人。声がハスキー  
ボイスだがまだ女の子っぽい。

二十歳だしキリッとかッコ良い大人になりたいと思っているが、お  
姉さんに化粧をされてしまうと、女の子の秘密の悪戯のようにドキ  
ドキしてしまい、女の子の格好をするだけで恥ずかしくなってしまう  
うも、その様子が乙女のように、あるいは恥ずかしくなってしまう  
少年のようで。お姉さんにとっても気に入られてしまっている。主人  
公の背丈は、お姉さんに抱き着かれると、おっぱいに埋もれる辺り。  
お姉さんとエッチでよくするのは甘やかされるのと、おちんちんを  
元気づけられるシチュが一番興奮するためされてしまう。本人は抵  
抗してもすぐ陥落する。女の子みたいな声を出してしまう。将来は  
王子様みたいな人になりたいと思っているがおちんちんが攻められ  
ると弱い。抵抗しているがあつという間におちんちんが陥落してし  
まう。声は男の人になりたいのに女の子のような声になってしまっ  
ている感じでお願ひします。

男の子の時の声は低いけど癒されるようにお願いします。なるべく優しく語りかけるようにしてください。女の子のような声でエッチな声を出すときはお姉さんに甘えている感じでお願いします。キンキン声はなるべく避けて、男の子の時のギャップで聞いていて癒されるような甘い声や切ない声がいいかなと思います。え、この男の子、この地声でこんなメス声出すの？ という印象が聞いている人に出せたら成功かなと思います。その時は、自然な発声で心を許しているのが伝わるようにお願いします。

## ヒロイン

お姉さん。未亡人。24歳程度。茶髪のロングヘアで、髪を一つにまとめ、化粧もシッカリしているし、すっぴんでも美人。とってもグラマーでナイスバディ。キツチリしている中にも滲み出る色気。

僕を元気づけたり、甘やかしたり、化粧をさせたり女の子の格好をさせるのが大好き。主人公にエッチな事をしてメス堕ちさせたようにアンアン言わせるのも大好き。僕に化粧をするときは前戯されているように興奮してしまう。主人公に女装をさせた後エッチするときは、既に準備が整っているので、その流れで、うつとりした表情で僕に愛撫もする。普段は優しい中にもしつかりした芯の強さや。それと正反対に儚さもあるが、僕に女装させている時は妖しいお姉さんになる。

未亡人ですが人妻してないというか、お姉さんぽさを出したいので、声はあんまり太くない感じでお願いします。それと、自分がキンキン声が苦手なのと、聞いていて癒される感じにしたいのもあるので、優しく語りかけるような口調で、高すぎる声はなるべく出さないようにしてください。

エッチの声は甘く、ささやくようだが、性格が滲み出る部分は受け攻めと言えば攻めでS属性でお願いします。優しいお姉さんのような声で元気づけたり、失敗を優しく慰めたり、その流れでおちんちんを弄ったり、ひどい失敗をしまったけど、また頑張ろうと思えるような声色でお願いします。

## 方向性

僕とお姉さんのエッチシーンについて

男の娘の僕とお姉さん（後家さん）の男の子に女装をさせたエッチシーンのため、お姉さんが僕に、女の子の秘密の悪戯に男の子を誘うような雰囲気が伝わるようにお願いします。その時のひそひそ声やささやき声はエッチシーンで優しく耳に癒されるようにお願いします。

お姉さんは後家さんのお姉さんのため優しくて甘やかしてくれて、元気づけてもくれますが、キャラ立てとして、切なくなるようなセリフの時に声に切なさが乗ると後家さんっぽくなるため、元気づけて、甘やかして、最後は楽しくなってしまう、女の子のエッチで秘密な悪戯に男の子を誘うのをイメージするような二人のエッチですが、最後は盛り上がっても、なるべく切ない声も入れてください。また、可能なら盛り上がっている状態でも切ない雰囲気がときどき乗るような様子も入れてください。主人公の僕にも同様に切なさうにエッチをしている声を入れてください。

1 お姉さん：「うふふ。今日も寝室で、いーっぱい、エッチしようね」

2 僕 ：「……うん。」

3 お姉さん：「うふふ。お姉さんと……お化粧して、女の子の格好にお着換えしただけでただけで気持ちよくなっちゃうなんて……かわいいっ。」

4 僕 ：「う……それはお姉さんもじゃない。」

5 お姉さん：「そうよ……私。君が、女の子の格好になるのを見ているだけでゾクゾクしちゃうの。ローションも。たーっぶり、お互いのお洋服に塗ったものね……お姉さん。エッチな気持ちになっちゃった」

6 僕、既に女装に着替えていて、愛撫を軽くされてしまった後のようにドキドキしている。場所はお姉さんの部屋の寝室。お姉さんと僕の身体には服を着た状態なのにローションが塗られ、お姉さんのところどころと、僕の身体が透けてしまっている。お姉さんは既に、僕を狙っている。ここからどういつ展開になるのか、お姉さんは楽しそう、僕はドキドキしている。

7 お姉さん：「ね、君。まずは……あーん。ちゅっ。ちゅっ。ちゅっちゅっちゅっちゅー……っ」

8 僕 ：「んっ。ちゅっ。ぬちゃっ、にちゃっ。ちゅぶっ、ねちゅっ。にちゅっ。ぬちゅっ。」

9 お姉さん：「ちゅぷ……んっ。ねちゅねちゅ。にちゅちゅっ。ちゅぶちゅぷっ。」

10 僕 ：「んっ、んっ、んっ……ああっ、はあっ。んぷっ。んっ。んっ。んんっ。ん……っ。」

11 お姉さん：「ふふ。くちびる。ぷるんぷるん。ん……んっ。美味い……っちゅっ。」

12 僕 ：「う……あぶっ。にちゅっ。んっ。ぷっ。はぶっ、ん……っ。んっ。ちゅ……。」

13 お姉さん：「ふふ、ぐいぐい当たってるおっぱい、気持ちいい？」

14 僕 ：「ちゅぱ。あ。そんな……んぷっ。」

15 お姉さん：「プルンプルンで気持ちいいでしょ……っ？」

15 16僕 …「うっ、うん。気持ちいい……っ」

17 お姉さん、優しく甘い声色で主人公とキス。ちゅば音やキス音はお姉さんは優しく癒されるように丁寧に、しかしローションで粘度のある感じで。僕はお姉さんの舌の動きを追うような感じで、まだ拙い。キスをしている間もお姉さんに覆いかぶさられて、ローションに濡れた服越しから身体を擦り付けられているため。声はお互い、愛撫をしているように感じている。徐々に増していく感じでお姉さんは乗っていく感じで。僕は流されていく感じで。

主人公が気持ちいいと言う時は快樂墮ちした男の娘みたいなメス声でお願いします。2、1、2番まで切ない声で耐えていましたが14番の「そんな……」あたりからメス墮ちしています。

16 18お姉さん：「ちゅばっ。ふふ、今度は……おちんぼ出して」

19 お姉さん、悪戯っぽい声で主人公のスカートを捲っておちんちんを取り出す。既に固くなっている。

17 20僕 …「うわあっ。」

18 21お姉さん：「ふふ。君のおチンポが元気になりますようにって手でえ、しごいてあげる。」

19 22僕 …「うっ。うっ……っ ああっ」

20 23お姉さん：「かわいい、かわいい、おチンポ。おっき、おっき。おっき、おっき。」

21 24お姉さん：「げんきになーれ。げんきになーれ。」

25 お姉さん、言いながら僕の固くなったおちんちんを手で扱っている。メタ的には、ここでお姉さんの声を聞きながらナニを弄りたくなるように言っただけでください。音声聞きながらナニを弄っている時に我に返らないように、夢の中でするように聞いている人をつつとりさせる感じをお願いします。

21番の声は穏やかで次第に囁くようにお願いします。言い方は徐々に弱くですが攻めながら元気づけるように、優しく。エッチしたくなるように。

22番の声は「うっ」で耐えるように、「うっ……っ」で次第に快樂墮ちしていくように。「ああっ」でメス墮ちした感じでお願ひします。

22 26僕 …「あっ、うっ……っ。んっ、んっっ！」

27 僕、お姉さんに扱かれているだけでどんどん声が出てきてしまう。

23 28僕 …「で、出ちゃう。おチンポから出ちゃうー！」

24 29お姉さん：「出しちゃうの、ぴゅぴゅーって、出しちゃうの？」

25 30僕 …「う、うん、だから、お姉さん…… いつもみたいに、口でして……。」

26 31僕 …「僕のおチンポ。お口でいっぱい……ぐぐぐって飲んで、受け止めてえっ！」

32 僕。メス墮ちした、乞つような声でお姉さんをお願いする。

27 33お姉さん：「はあい ん……ちゅっ。ちゅぶっ。ちゅぶちゅぶちゅぶっ。ちゅぶぶっ！」

28 34お姉さん：「ちゅぶぶぶぶぶっ。ぶじゅるるっ、じゅぶるるっ、むじゅっむじゅっ！」

29 35僕 …「あっ……あっ、ああっ！ きゃあああっ！ あっっ！はっん……っ」

36 僕、最後（はうんの辺り）は力が抜けたようにお姉さんの口いっぱいに射精する。

30 37お姉さん：「んぶっうっうっ！ ぐぐぐぐぐぐ、ぐぐっ、ぎゅっ、んっ。んっ。」

38 お姉さん、勢いづいた射精に喉に押し込まれるように飲んでいき、最後は喉にどろりと絡みついているのを無理やり飲もつとしている感じで。

31  
3  
9  
僕

「はー……っ はーっ はー……っ あう……  
気持ちよかった…… あ」

40 僕、既にメス墮ちして、最後は吐精の余韻に浸るように。さ  
 さやきボイスの甘い感じでお願ひします。

2

Chapter 2 お姉さんに抱っこされて……おっぱいで顔をむぎゅむぎゅされて。

41 お姉さん：「ね。お洋服、脱ぎ脱ぎしちゃいましょう。」

42僕  
：「あうっ、ん……っ。あっ。」

43 主人公の着ていたワンピースの前が開いてはだけ、されるが  
 ままだった僕だったが、お姉さんもそうになると、大きな乳房と三角  
 地帯が露になるのを目の当たりにしてしまふ。

44 お姉さん：「お洋服の下は、何も着てなかったの」

45 お姉さん：「裸で……えつ。ぎゅつ、ぎゅつてして、いっぱい、エッチ、しましょう？」

「うん。僕……お姉さんと、エッチ、したい。」

47 お姉さん：「まずは……ぎゅっ。」

48 お姉さん、ローシヨンの付いた体（素肌）で主人公を包み込むように抱き着く。

38  
49 僕  
：「うわっ。  
あ……っ  
あっ  
あっ  
んん……」

んうつ。  
はあつ  
」

50 僕、とろんとしたように気持ちよさそう。お姉さんのおっぱいと太腿が擦り付けられていたと思つたら、おっぱいが僕の顔に来る。

39  
51僕  
：「うぶっ。はあ……っ  
おねえさんっ。おっぱ

「いい気持ちいい……いい」

52 「うぶっ」って言った後からずっとおっぱいでパフパフされてます。僕、恍惚とした声でいると、今度はおっぱいに顔を埋めたまま、おちんちんをお姉さんの手で弄られる。

40 53 お姉さん：「はあい。手でおチンポ、クチュクチュしますからねー。」

41 54 僕 …「きやうっ。うぶっ。ん……っ。あっ んちゅっ。」

42 55 お姉さん：「元気、元気、あんっ」

56 僕、お姉さんにおちんちんを扱かれている内に僕がお姉さんの乳首を探り当て、吸うようになる。タイミングは55番のお姉さんのボイスで「あんっ」って言ったところで探り当ててます。

43 57 お姉さん：「ん……っ。ちゅうちゅうするの、とっても上手ね。いつまでも吸われない……っ」

44 58 僕 …「あっ あっ あうっ ちゅっ、ちゅっ。ちゅぶ。ちゅっ。」

45 59 僕 …「お姉さあんっ。おチンポ、気持ちいいよあつ。」

46 60 お姉さん：「あんっ 私も……っ。君に、おっぱいも、乳首も、吸われているから……あつ。」

47 61 僕 …「お姉さんも気持ちいいの？」

48 62 お姉さん：「はあっ、ああっ あうんっ ええ、とっても……気持ちいいわ」

49 63 僕 …「んん……っ」

64 僕、感じるようになったのをお姉さんに悟られ、お姉さんにおちんちんを扱かれていく。

50 65 お姉さん：「あっ、あっ、あうんっ もっと……乳首、ちゅぱちゅぱしてえっ」

51 66 お姉さん：「私、乳首でも、いっちゃうのっ。君が吸うと……特にそっちなっちゃうっ」



67 お姉さん、感じていると言いながらノリノリで主人公のおちんちんを扱っている。

52 68 僕

：「はあっ、はあっ はあんっ お、お姉さんっ、お姉さんっ あああんっ」

69 僕、腰をひくつかせて手コキに耐えているが、最後は絶頂してしまう

53

70 お姉さん：「ああ……っ、んああああっ！ あ……っ」

3

chapter 3 お姉さんと生本番エッチ

71 ぬちゅッという音がして、お姉さんの手とおっぱいが離れる。

54

72 僕 ：「え？ お、お姉さん？ あっ」

73 お姉さんが僕のおちんちんに花弁を擦り付けて往復し、ねちよねちよと動かしていく

55

74 お姉さん：「まずは、おまんこ、おチンポで、入れる前にすりすりしようね」

75 お姉さん、腰を動かしてねちよねちよと動いている。

56

76 僕 ：「う、うん。んっ、んっ。お姉さん……おっぱい揺れてるよ。あっ」

77 おっぱいが揺れているのを見ている内に、僕の顔にまた、おっぱいが当てられてしまう。76番のボイスで最後に「あっ」と言っている部分で当たっています。

57

78 お姉さん：「すりすりしている間、おちんぽがもっと元気になるように、おっぱいで、お顔。抱っこしてあげる」

58

79 僕 …「んっ、んっ んうっ。お姉さぁんっ。お姉さぁんっ そんなにされたら……あっ」

80 僕、79番の最後で「あっ」と言っている部分でおちんちんが大きくなる。

59

81 お姉さん：「……ふふ 元気で、正直なおチンポね。ご褒美に、お姉さんのおマンコで、げんき、げんき、してあげる」

82 お姉さん、言い終わると腰をあげて、僕のおちんちんをおマンコで呑み込んでいく。

60

83 お姉さん：「んっ……っ はぁんっ」

61

84 僕 …「あっ おチンポ、ヌルヌルするうっ」

62

85 お姉さん：「んっ、はぁ……っ くっ、はっ。あぁんっ おマンコに入れても、おチンポが元気いっ」

63

86 僕 …「んあっ、あっ、あぁっ あっっ、んうっ、んん……っ、はぁっ」

87 お姉さんが僕のお腹に両手を着いて、腰に打ち付けるようにお尻を上下させている。僕とお姉さんがとろけそうな声を出しつつも息が荒くなってきた。具体的には語尾に が付いているのがとろけそうな声で、付いていない、短く切るような声はだんだん、荒くなってきた感じでお願ひします。

64

88 お姉さん：「はぁあ……っ あぁっ あっ、あっ、んっ、んっ、んうっ……っ あはぁ……っ」

65

89 お姉さん：「よしよし 君のおチンポ、元気になーれ、元気になーれ。よしよし、よしよし」

66

90 僕 …「はぁっ んっ、んっ、あぁっ、んんっ。はぁ……っ あぁんっ あっあっ あっあぁんっ んんっ、く……っ。はぁっ ……はぁんっ」

67

91 僕 …「ああ……っ 僕、お姉さんにそんなにされたら、おチンポ、元気になっちゃうよあっ あ……っ」

68

92 お姉さん：「おチンポは、正直で、元気が一番なのよ」

69 93 僕

：「でも、こんなに元気になったら、おチンポ、破裂  
しちゃうよあつ もうパンパンだよあつ おチンポ、  
膨らんじゃうつ」

70 94 お姉さん：「そうしたら、お姉さんのおマンコの中で、ぴゅぴゅーっ  
て、出しちゃって」

71 95 僕 ：「いいの、出しちゃって？ 出したら、子供が出来  
ちゃうよ？」

72 96 お姉さん：「ええ。んんっ。君と、あつ お姉さんの子供が  
出来ちゃうわね。」

73 97 僕 ：「う、うん。いいの？ 作っちゃって。」

74 98 お姉さん：「ええ。私の卵子を、あなたにあげる。だから……  
あなたの精液をちょうだい」

75 99 僕 ：「……っ ああっ 出る、でるうっ 出ちゃ  
うよあつ」

76 100 お姉さん：「んっ。ぴくぴくするうっ 正直おちんちんっ」

77 101 僕 ：「お、お姉さあんっ。お姉さあんっ。僕の子を産  
んでえっ」

78 102 お姉さん：「ああ……っ 妊娠しちゃうっ んん……っっ」

103 お互いの動作が止まり、出しそうになると。

79 104 僕 ：「んぶっ。」

80 105 お姉さん：「ふふ。またおっぱいで抱いて、いい子いい子し  
てあげる。」

お姉さんが僕の頭を抱いておっぱいをむぎゅむぎゅと当てて抱きし  
めてきた。

81 106 僕 ：「んん……っっ」

107 恍惚し、とろけそうな気持になっている内に全身が硬直し  
たと思うと、身体が激しく痙攣し、僕はお姉さんの中に本当に放っ  
てしまうっ。

82 108 僕 …「あつ……ああ……っ ……ふにゃあつ」

109 僕、お姉さんの中で甘えるような声を出して中出ししてしまう。

83 110 お姉さん：「ん……っ。ああっ、可愛い声でいっちゃったわね。」

84 111 僕 …「でも、お姉さんがまだだよ。」

85 112 お姉さん：「そうね。君はどうしたい？ あっ」

113 お姉さんの中で、また僕のおちんちんが大きくなる。

86 114 僕 …「今度は僕が……お姉さんがいくまで動くよ。」

87 115 お姉さん：「まあ…… 元気なおチンポね。あっ」

116 僕、お姉さんの中で動き始める。110番の「あつ」の  
所から動き始めてます。

88 117 お姉さん：「んっ、ああっ、あんっ ああっ、やあんっ。

子宮にコツコツ、当たってるうっ 赤ちゃんの部屋を

そんなに叩いたら、こどもがつくりたくなっちゃうっ」

118 お姉さんはポルチオアクメ経験済みのため、子宮をつつかれ  
ると弱点のように感じるようになってます。

89 119 僕 …「うわ……お姉さんの中、すぐくヌルヌルしてるよ」

90 120 お姉さん：「だって、お姉さん、子宮をつつかれるのに弱い  
んですもの」

91 121 僕 …「う、うん。僕、お姉さんの子宮をいっぱい、き  
ちんと突くから。お姉さん、いっぱい感じて、いってね？」

122 僕、健気な感じでお姉さんに果てて貰うように尋ねて言う。

92 123 お姉さん：「ええ 君がそうしてくれれば、お姉さん、とても簡単に、いっちゃうわ あなたがそうしようと思ってくれるだけで、とっても子宮が疼いちゃうの」

124 お姉さん、嬉しそうに僕に言う。

93 125 僕 ：「う、うん、お姉さんっ、おねえさんっ」

126 パンパンと腰を打ち続ける僕

94 127 お姉さん：「あっ、あっ、ああんっ ひあっ、あっ、ん  
あああっ はあっ、いっちゃう、いっちゃうっ  
正直な元氣おチンポでいっちゃうっ ひっちゃうっ」

128 「ひっちゃう」の「ひっ」の所は聞いていて耳がキンキンにならない程度に少し高めのひきつつているような声でお願いします。

95 129 僕 ：「あっ、あああっ。お姉さん、すごい、締まり……っ  
僕も出しちゃう あああっ（感じているけど搾  
られるような声で）」

96 130 お姉さん：「んん……っ 元氣な精子が、お腹の奥まで……  
……卵子にまで届いちゃう（実際には性感ですが、精  
液が体の奥まで染み渡るように）」

97 131 お姉さん：「いく……っ はあ……あっ。んあ……あうんっ  
はああ……っ」

98 132 僕 ：「ん……お姉さあん。あっ あうっっ」

133 おねえさん、僕に倒れて来て、再びおっぱいで抱かれてしまふ。「あっ」の所でそうなってます。

99 134 僕 ：「ん……っ お姉さんのおっぱい、柔らかくて  
大きい……っ」

100 135 お姉さん：「ふふ、ありがと。気持ちいい？」

101 1 3 6 僕 :「うん。でも、こうするの、少し恥ずかしくなってきたかな。僕も大人だし。」

102 1 3 7 お姉さん：「君の年齢だと抵抗あるかもしれないけど、大人になっても、お姉さんに甘えていいのよ？ こうして、よしよし、って。」

103 1 3 8 僕 :「う、うん。でも、まだ……恥ずかしいよ。」

104 1 3 9 お姉さん：「どうして恥ずかしいの？」

105 1 4 0 僕 :「僕も、女装趣味は持つて、綺麗になりたくても。それと同じくらい、普段はカッコいい大人になりたいからさ。」

106 1 4 1 お姉さん：「やだー。かーわいっ」

107 1 4 2 僕 :「うわぶっ。（抱きしめられておっぱいに押しつぶされそうになる声）」

108 1 4 3 お姉さん：「かわいい、かわいい、かわいいし、カッコいいわあ。」

109 1 3 9 僕 :「あ、あのね、お姉さん。（まだおっぱいに埋もれている声）」

110 1 4 4 お姉さん：「ううんっ。君みたいな年齢の子といるとね。大人になっちゃうと、とっても可愛く見えちゃうの。君も、今は分からなくても、大人になったら知ることになるわ。」

111 1 4 5 僕 :「う、うん。そうなんだ。」

112 1 4 6 お姉さん：「だから、いっ……ぱい、お姉さんに可愛がられて。甘えて、辛いことがあつたらよしして貰って、おおきくなれたら、カッコいい大人になれるわ。私が手伝ってあげる。」

113 1 4 7 僕 :「ええと、手伝って貰っていいの？」

114 1 4 8 お姉さん：「いいのっ。そういうのは、手伝ってくれる人を手放すと、後で泣きたいことや辛いことがあつたとき、一人で消化できなかったら、とっても辛いから、手伝って貰いなさい。人に手伝って貰えるのを、カッコ悪いって思わないの。そういうのは、恵まれているって思ふのよ。」

115 1 4 9 僕 :「う、うん。いいんだ。」

<p>116 お姉さん：「いいの。そ・の・代・わ・り。（悪戯でもたくらむような声で）」</p> <p>117 151 僕           ：「へっ？」</p>	<p>4</p> <p>chapter 4 お姉さんとお口エッチ</p>	<p>118 152 お姉さん：「君のおチンポがつよくなれるように、お口でしてあげる。あーんっ       じゅるっ       」</p> <p>153 お姉さん、お口で一氣に口に含み、絞った唇を伝って喉奥まで僕のおちんちんを呑み込んでしまっ。</p>	<p>119 154 お姉さん：「ちゅっ、ぶっ、ちゅぶっ。ぶじゅっじゅぶっ。ぶじゅるっ、んっ、んっ。んじゅるっ、じゅるじゅるじゅる、ぶじゅるじゅるじゅるっ、じゅるぶぶぶっ、じゅぶぶぶっ！ぶじゅっぶじゅっぶじゅっ。はむ、んぶっ、ぶぶぶっ。あぶっ、んっ、ぶぶぶっ、じゅぶぶぶぶっ。」</p>	<p>155 お姉さん、おしゃぶりや息継ぎを交えて、僕のおちんちんを唇で扱ってじゅぶじゅぶと唾液を嚼るように吸い出してくる。</p>	<p>120 156 僕           ：「う、うううっ、うぐっ（この辺はまだ男の子っぽい声で）うぐ……あっ、あっ、あっ。（次第にメス堕ちしていく感じで）お、お姉さんっ。（懇願するように）出ちゃう、出ちゃうよあっ       おチンポそんなに吸わないで       吸っちゃヤダあっ       （この辺りはもうメス堕ちで）」</p>	<p>121 157 お姉さん：「じゅぶっ……はあっ       おちんちんが我慢できなくなったら。ぴゅぴゅって、出しちゃっていいのよ。お姉さんが飲んであげるから……       ぶじゅっぶじゅっ。びじゅぶじゅぶじゅっ。ぬちゅぬちゅ、にちゅにちゅにちゅ、ちゅにちゅにぶじゅっ、ちゅく、ちゅく、ちゅくちゅくちゅく。れろれろれろっ、ねろ……っ。」</p>
---	--------------------------------------	---	---	--	--	---

158 お姉さん、僕に言つと再び唾液で啜るように僕のを吸い、次第に舌先で先端をクチュクチュと掻き回したり、周りを舌で舐めこすり取るようにしていく。

122 159僕 …「う、うつつ。僕……またいっちゃう。出しちゃう。出しちゃうよおっ！ああ……っ！」

160 僕、幾度となく果てた射精がまた起こる。

123 161お姉さん：「んん……ぶっ、んぶぶつつっ！ おぶっ！  
ぶっ！」

162 お姉さんの口の中に勢いよく噴き出ていき、飲み干そうとしているが苦しそうだったり口から溢れているような感じで受け止めてあげてください。

124 163お姉さん：「ん……あぶっ。また、いっぱい出してくれたわね。んっ。」

## 5

chapter 5 お姉さんとパイズリして舐められる」

125 お姉さん：「今度は、おっぱいでおチンポを挟んであげる。」

126 164僕 …「あっ お姉さあんっ。」

127 165お姉さん：「こうして、おっぱいで挟んで……えっ。舌で、先っぽ。ほじほじしてあげる。ちゅくちゅくっ。れるれるる。ねちゅっ、れえ……るっ、れるれるっ。（攻め立てるといふよりは、優しく、出したばかりの、おちんちんを慰めてあげる感じで。）

128 166僕 …「あっ、あっ。あうっ あっ、あっ、あんっ」

129 167お姉さん：「れるっ、はぶっ、今日はおちんちん、元気、いっぱい……。だったもんね。れりゅれりゅっ。元気だった後は、いっぱい……慰めてあげないとね。よしよし、よしよし。おチンポ、よくやりました。れるっ。」



130

168 僕

：「うあつ、んあつ、う、ああつ　ふあ……っ、あふ……っ　お姉さん。お姉さあんっ。いっちゃう、いっちゃうよあつ。もっ……おチンポ、こわれちゃう……っ」

131

169 お姉さん：「壊れちゃって。いいの……っ。私も、もっ……壊れちゃいそう……」

132

170 僕

：「あつ、あああんっ、んあつ、ああつ、うああつ。おチンポいくっ、おちんぽいくっ。おチンポいくっううっ。でるうっ　壊して、壊してっ　きゃああんっ」

133

171 お姉さん：「れりゆれりゆれりゆっ、ねりゆねりゆっ、にゅるるるっ、ねりゆりゆっ。にちゅ、ぴちゅっ、ん……っ。れりゆれりゆれりゆりゆっ、ねちゅねちゅっ、にちゅちゅっ」

134

172 僕

：「壊れるううっ。壊れちゃう……っ　いっちゃう、いっちゃう、いっちゃうううっ、いくっ、でるうっ。お姉さあんっ　あ……っ」

173　派手な音を立てて僕が吐精する。

135

174 お姉さん：「あぶううっ、んっ、んっ、んぶうううっ！　うう……ああっ　目……開けてられない……　おっぱい……い……いっちゃった」

175　お姉さんが俯いて舌先のみを出していたから、噴き出た精液でちょうど顔の真ん中に当たってしびれている感じです。特に鼻先当たり。

136

176 僕

：「あ……うん　お姉さん……顔からおっぱいから、僕の出したのでいっぱいだよ……」

137

177 お姉さん：「ん……ちろっ、れろっ、ねちゅ、ねちゅ、ねちゅっ。ちゅぷっ、ちゅっ　ん……っ　ねばねば……あつ　ねちゅねちゅ……っ」

178 お姉さん、僕の出した体液を舐め取って遊んでいる。ねばねばは、そのままの読みの発音ですが、その後のねちゅねちゅ……っの発音は、ちゅば音でお願いします。

## 6

## chapter 6 お姉さんと耳舐め手コキ

138 179 お姉さん：「……ふふ 君のおチンポと……あ、もつと、遊びたいな……」

139 180 僕 ……何をするの？ お姉さん。」

140 181 お姉さん：「今度は……これ あーん。ちゅぶつ。」

182 お姉さん、僕の耳に甘噛みをして、しゃぶりながら、おちんちんを手コキする。

141 183 僕 ……「あつ 耳が……くすぐったいよあ……っあつ んうっ」

142 184 お姉さん：「ぴちゃっ、君がいくまで、ちゅるっ、お姉さんが……あ。お耳を、お口で。チュクチュクして、おチンポをしこしこしてあげる。ちゅぶ、ちゅぶ、ちゅぶ。」

185 お姉さんの声は、ゆっくりと、丁寧に、甘く。ささやくようなボイスでお願いします。

143 186 僕 ……「あつ、んあつ 耳も……感じるうっ くすぐったい……っ。」

144

187 お姉さん：「おつき、おつき、おつき　ちゅぶ、ちゅぽつ。  
ちゅば、ちゅば、ちゅば。ちゅくちゅくちゅく、ちゅく  
ちゅくちゅく、ちゅるつ。ちゅりゅつ。ねちゅつ、ぴちゃ  
れる、れる、れるれるるつ、ね……りゅつ。にゆる、  
にゆる、にゆるにゆるにゆるつ。にゅぱつ、ちゅぶちゅ  
ぶちゅるつ。ちゅるんつ。れりゅ、れりゅれりゅ。元氣、  
出してつ　元氣になって　転んでも、傷だらけになっ  
ても、元に……戻れなくても。また……君が、元氣でい  
られますように……　そうなった時は。君が帰りたい  
場所を、思い浮かべられるようになって……」

188　お姉さんのちゅば音の後の、普通に喋っている台詞は、男  
の娘の僕に向かって言っているんですが、音声作品を聞いている人  
も元氣づけられるような、励ます形のささやきボイスでお願いしま  
す。ここは切なくていいです。優しい声色でお願いします。で  
ないと悲しいイメージの方が強くなっちゃいそうな気がします。そ  
ういう層の方に、悲しい気持ちを一旦忘れて、辛いときに繰り返し  
て聞きたくなるような、需要がありそうな形でお願いします。そう  
している間も、お姉さんは僕のおちんちんを手コキしていますが。

145

189 僕

：「あつ、あつ、ん……つ　あつ　あつ　あつ  
はう……んつ。んつ、ふあ……あつ。あつ……んつ。  
ん……あつ。お姉さん、お姉さん　ああ　いつ  
ちやう、いつちやう。いく、いく、いくうつ、あつ、あ  
あ　いつちやうよあつ。おチンポ、こんなに元氣に  
なったら、お姉さんにいっぱいかけちゃうつ」

146

190 お姉さん：「いいわ。いっぱいかけて……えっ いっぱい出して……えっ 濃い、ちようだあい……っ  
ちゅぱ、ちゅぶ、ちゅぶ、ぺちゅっぺちゅっぺちゅっ。  
ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ、ちゅるっ、ちゅるるっ、じゅるっ。  
じゅるじゅるじゅるっ、じゅるじゅるっ、にじゅるっ、ぺちゅっ、ちゅぴっ、れる……うっ。ねりゅっ、ねちゅねちゅねちゅっ、にちゅにちゅっ、ねりゅりゅりゅりゅっ、ねりゅりゅっ、にちゅっ。ねちゅねちゅねちゅっ、にちゅっ、え……るっ。えらっ、えらっ、えらっ。ぺ……るおっ。じゅぶっ、じゅぶっ。ぴちゅっ、ぺちや、ぺちや、ぺちやっ。ぺちや、ぺちや、ぺちやっ、ねちゅねちゅっ、れりゅれりゅれりゅっ。に……ちゅっ。」

147

191 僕 :「あっ あっ んっ 舐めて……お姉さん、もつと耳を舐めてえっ。ぺろぺろがいい、ぺろぺろがいいよおっ」

148

192 お姉さん：「おちんぼはっ。」

193 僕 :「う、うんっ。おちんぼも、いっぱい、しこしこしてえっ。」

149

194 お姉さん：「ふふ はあいつ 耳も、おちんぼも、チュ  
 クチュクしてあげる…… おっき、おっき ペちやつ、  
 ペちやつ、ペちやつ。おっき、おっき…… ちゅぶ、  
 ちゅぶ、ちゅぶ、ちゅぶ。おっき…… はあ……っ  
 チュクチュク、気持ちいい……？ そう、もつとしてあ  
 げるわね…… ねちゅっ、ねちゅねちゅねちゅっ、れ  
 りゅれりゅれりゅっ、あ……むっ。はむ、はむ、はぶっ。  
 あぶっ、ちゅるっ。おっき、おっき…… ねちゅねちゅ、  
 ねちゅっ、はぶっ、ちゅるっ。じゅる……じゅっ、じゅ  
 るじゅるじゅる。れりゅれりゅれりゅっ。じゅぶ……っ、  
 ねちゅねちゅねちゅ、れりゅれりゅっ、ねりゅっ、れりゅっ  
 れりゅっれりゅっ。」

150

195 僕 ……んん……っ、あっ う……んんっ んっ、  
 んっ、んんっ あ……うっ んぶ……んんっ ふあっ  
 あっ ああっ ああっ あ……っ うう……  
 くっ んんっ、んんっ お姉さん、お姉さあんっ  
 う……ああっ うっ、うっ、ううっ ……くは  
 あっ ああっ、あんっ あんっ あんっ きゃ  
 うっ 「

151

196 お姉さん：「ふふ……お耳、つるつるであつたかあ……いつ、  
 ふー、ふー、ふー……っ ちゅぱちゅぱちゅぱ、ちゅる  
 るっ、お姉さんが…… あっ、毎日舐めてあげられるよ  
 うに……いつ、綺麗にしてくれているのね…… 嬉し  
 いわあ……っ。」

197 お姉さん、優しくささやいています、今の状況は手コキ  
 でフィニッシュに近づいている状態です。

152

198 僕

：「う、うん……お姉さんに、ぺろぺろして貰いた  
く……っ。あつ、んんっ　くすぐりたい……よあ……っ  
あつ　お姉さん、ぺろぺろ、気持ちいい……っ  
いいっ、いいっ　ん……あつ　う……く、んんっ  
んんっ、んんっ、んんっ　あうっ　いっちゃん、いくっ。  
あ……っ　ふあつ……っ　」

199 僕、吐精する。198番のラスト、あ……っ　で上がり  
調子で、ふあつ……　で、下がり調子で力が抜けていく感じで、  
可愛く気だるげにお願いします。

153

200 お姉さん：「ちゅぱっ。ふふ……っ。いっぱい、出して、く  
れたのね……　」

154

201 僕　：「はあ……っ　はあ……っ　はうんっ　気  
持ち……よかった……あつ　」

155

202 お姉さん：「ふふ……　それじゃあ……　このまま……  
……あつ。　」

156

203 僕　：「あつ。　」

204 場面、暗転します。

## 7

## chapter 7　お姉さんと添い寝

157

205 お姉さん：「添い寝して、あげるわね。　」

206 お姉さん、寝室のベッドで二人で寝ると、おっぱいで僕を抱く。

158

207 僕　：「うわっ。　」

208 このあたりでは僕の声は男の子に戻っている声でお願いします。

159

209 お姉さん：「おやすみなさい……君が、眠くなるまで……お  
姉さんが、おっぱいで、抱っこしてあげる……　」

160 210 お姉さん：「ん。ねんねんねん、ねんねんねん……。すー  
 ……っ。すー……。すー……。ねんねんねん、ねん  
 ねんねん……。ゆつくり……。おやすみなさい……。ねんね  
 んねん、ねんねんねん……。すー……。すー……。すー。  
 すー……。ねんねして……。ねんねして……。すー……。すー。  
 すー……。ねんね……。ねんね……。ねん……。」

211 この後僕も喋りますが、205番からお姉さんと僕とで、  
 聞いたままお休みできる、ささやきボイスというか吐息と変わらな  
 い声で丁寧な感じをお願いします。できれば210番は後で切り出  
 した時に、そこだけお休みループボイスとして扱えるように、ル  
 プ可能になるようにボイスを合わせてください。

161 212 僕 ……「ん……。んっ。お休みなさい、お姉さん……。んっ。  
 すー……。すー……。すー……。すー……。すー……。すー……。  
 んん……。お姉さん……。んん……。んん……。」

162 213 お姉さん：「どう……。おっぱい、柔らかい……。？」

163 214 僕 ……「うん……。とっても、柔らかいし……。あたたかい  
 し、気持ちいいよ……。」

164 216 お姉さん：「……。おっぱい……。吸っ？」

165 217 僕 ……「うん……。」

166 218 僕 ……「ん……。ちゅうっ。ちゅぱ、ちゅぱ、ちゅ  
 ぱ……。ちゅぱ、ちゅぱ、ちゅぶっ。ちゅぶちゅぶ……。ちゅっ  
 ……、ちゅっ……。ちゅ……。っ。ぱっ。ん……。んっ。ん  
 ……。」

219 僕がお姉さんのおっぱいを吸っている音は、添い寝中のため、  
 小さく、耳に心地よい音量で、そっと優しく、吸っている音を出し  
 てください。

167 220 お姉さん：「うん。ん。あ。っ。はあ。あん。ん。  
ん。う。く。ん。はあ。はあ。は  
あ。ん。う。おっぱい、ちゅうちゅされる  
の……気持ちいい……あ……いや……あ  
あ。ん。ん。あ。ん。」

221 お姉さん、おっぱいで感じたまま、僕のおちんちんに手を添える。声は僕と同じく、吐息と変わらない声で、耳に心地よい音量で声を出してください。

168 222 僕 ……「はあ。あ。あ。あ。あ。ん……  
はあ……あ」

169 223 お姉さん：「お姉さんも……君におっぱいを……吸われて……え。  
いっちゃうから……あ。二人でいったら……お休み  
しましゅう……」

170 224 僕 ……「うん。」

171 225 僕 ……「ちゅく、ちゅく、ちゅく……ちゅぶ、ぶ。ちゅ  
く……ちゅく。ちゅく……ちゅ。ちゅ。ちゅ……っ。  
ちゅ。ちゅ。ちゅ……。」

172 226 お姉さん：「はあ。っ。ああ。っ。はあ。っ。はあ。っ。  
はあ。あ。っ。はあ。っ。はあ。っ。んん……。」

173 227 僕 ……「あ、あ、あ……いっちゃう。う。出しちゃう。  
出る……う」

228 僕、射精しますが、いく時の音も吐息でお願いします。

174 229 お姉さん：「はあ。ん……いっちゃう。いっ……ちゃう……  
ああ……うん」

230 お姉さんもいきますが、こちら吐息でお願いします。

175 231 僕 ……「はあ……はあ……はあ……あ。ん……。」

176 232 お姉さん：「はふ……ん。ん……ん。はあ……あ。あ  
……」

177 233 お姉さん：「君、寝ちゃったのね。お休みなさい……」



234 さいごまで吐息でお願いします。場面暗転。

8

chapter 8 お姉さんに再び化粧をされて、最初に戻る。

178 235 僕 ……」ん。」

179 236 お姉さん：「起きた？」

180 237 僕 ……」うっ、うん。」

238 目を覚ます僕。お姉さんも優しく呼びかけている。お姉さんはまだ、ささやきボイスで。僕はまだ眠りから醒めきっていないような声で。

181 239 お姉さん：「それじゃあ、お化粧直し、する？」

182 240 僕 ……」……うん。」

241 寝ぼけ眼で小さく頷く僕。お姉さんにそうされるのに断る理由が無いのと、そうなるとお姉さんと僕がどうなるかも知っている。それに対する期待もあった。

183 242 お姉さん：「お姉さんとまた、女の子がする、お遊びをしましょう……？」

243 それを知ってか、ここのお姉さんの声は吐息ですが、色っぽい感じでお願います。次からは通常の声ですが色っぽい感じでお願います。

184 244 お姉さん：「はい……。まずは、お肌を綺麗にするのを、お顔に塗って……えっ」

185 245 僕 ……」んっ……あっ……あっっ ああっ あ……っ。んっ。んっ あ……ふっ」

246 僕は既に身体の疼きを押さえきれない感じでお願います。

186

247 お姉さん：「うふふ、この後のいやらしい期待もしちゃって  
いるのね……可愛いわ ……はあっ 私も……ゾク  
ゾクしてきちゃう……」

187

248 お姉さん：「はい。次はお肌に、お化粧していきましようね  
……えっ」

188

249 僕 ……「あっ、あっ お姉さん……っ んんっ  
はあ……っ ふあっ は……あっ」

250 二人で前戯のような行為をしていくも、次第に女の子のよ

うな姿になっていく僕と、それを見ているお姉さんで疼きが止まら  
ず、はけ口を求め始めているような感じでお願いします。

189

251 お姉さん：「最後は……髪の毛も、綺麗にすいてあげる……」

190

252 僕 ……「んっ。あっ おねえさあ……んっ ん……  
んっ う……んんっ」

191

253 お姉さん：「ふふ……っ とつても……綺麗に……なったわ」

192

254 僕 ……「うん……」

255 僕とお姉さんの表情が妖しげになっている。声もそんな感  
じでお互い発情している感じでお願いします。

193

256 お姉さん：「それじゃあ、お姉さんと、またエッチ、する？」

194

257 僕 ……「うん……」

258 お姉さんと僕が。またひそひそ声のような感じで、悪戯の  
誘いをするように話しています。これで終了。お疲れさまでした。  
最初に戻って聴く気力が戻るように、とってもエッチな感じでお願  
いします。